

皇徳寺団地まちづくりニュース

第1号

～団地活性化に向けた**取組**がスタートしました～

平成31年1月16日発行

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、**ワークショップ形式**により具体的な取組みについて検討を進めてまいります。

このワークショップでの検討過程を広く地域の皆様に知っていただくため、まちづくりニュースを作成しました。

ワークショップとは、地域住民等による話し合いを通して、自由なコミュニケーションを行いながら、何かを作り上げていく手法の一つです

もくじ

1. 「団地の活性化」って具体的にどう進めるの？
2. そもそも「団地の活性化」とは？
3. 第1回はどんなことをしたの？
4. 次回のお知らせ

1. 「団地の活性化」って具体的にどう進めるの？

このワークショップでは、「皇徳寺団地」の魅力や困っていることなどについて、地域の方々と意見交換を行います。

その中から出てきた、団地の魅力や課題等を踏まえ、「もっと伸ばしていきたいところ」や「改善したいところ」を共有します。また、それを実現するために自分達で「できること・やってみたいこと」について話し合い、団地の活性化に向けた「具体的な取組み」について検討していきます。

■検討スケジュール（ワークショップ等）

【第1回の様子】



ワークショップに参加されていない方からもご意見を聞くため、**住民アンケート**等も実施します

平成30年度

平成31年度

平成32年度

第1回

平成30年12月11日（火）
19時～20時45分
「大学生と皇徳寺団地の未来について考える」

（無作為抽出）

平成31年1月～2月
「住宅団地の活性化」に関する住民アンケート調査の実施

第2回

平成31年2月15日（金）
19時～21時
「団地の魅力や問題について話し合おう！」

第3回

平成31年3月頃（予定）
「団地をこうしたい！何ができるか考えよう」

5回程度

- ・取組みの方向性の検討
- ・課題の抽出

2回程度

- ・具体的な取組みの検討

2. そもそも「団地の活性化」とは？（国土交通省による取組みイメージ）

団地の問題

人口減少や高齢化等により問題が発生

- ・人口が減っている。進学等により子供が団地から転出している。
- ・高齢者が増えている。
- ・空き家が増えてきた。
- ・様々な店舗が減っている。
- ・起伏や段差が多く移動が大変。
- ・車がないとスーパーにも行きづらい。

団地の魅力

一方で、団地には魅力的な資源がある

- ・緑や自然が多くて環境が良い。
- ・長年住んでいて近所とも交流が深い。
- ・日常生活用品が団地内で揃い、バス便があって中心部にも近い。
- ・賃貸住宅（公営住宅）等には子育て世帯の転入もみられる。

「団地の活性化」のためには、

- ・高齢者になった居住者が、健康に住み続けることのできる「団地」
- ・空き家等の住宅に、若者や子育て世帯が円滑に住み替えることのできる「団地」を目指して「団地」の魅力向上を図ることが重要です。

そこで、「団地の活性化」のために地域の方々とワークショップにて検討を行い
具体化な取組みにつなげていきたいと考えています。

■取組みイメージ（例示）



出典：国土交通省 住宅団地の再生のあり方に関する検討会（第2期）

3. 第1回はどんなことをしたの？

第1回では、鹿児島大学建築学専攻の小山先生と研究室の学生から、住宅団地全般の課題や皇徳寺団地の魅力についての調査結果を発表していただきました。その後、自分が知っている皇徳寺団地の魅力や、団地内で困っていることなどについて、意見交換を行いました。

■ 団地の魅力と課題 – 団地を住みこなすために – (鹿児島大学建築学専攻 小山雄資 准教授)

皇徳寺団地は、郊外住宅地づくりのお手本に沿って造成されました

一方で、家族の変化、働き方の変化等、さまざまな変化をあまり想定できていません

団地を住みこなしていくために、地域を知る、住民同士がお互いを知る、まずはそのための**場づくり**が大切です



小山先生による講演

■ 公共空間のエディブルランドスケープに関する研究 – 皇徳寺ニュータウンのブルーベリーロードの利用実態について – (鹿児島大学建築学科4年 植村さん)

皇徳寺団地の大緑道では、ブルーベリーが植栽され、食べられる景観が住民にとって身近な存在となっています

その一方で、収穫する人々が限定されてしまっている、コミュニティの十分な形成につなげていないという課題もあります

例えば、管理や収穫の**ルールづくり**や**関連イベント**などを団地内外で共有することで、ブルーベリーをきっかけとする**新たなコミュニティ**が生まれるのではないのでしょうか



まち歩き風景(平成30年9月)

■ 郊外住宅地におけるバス停の立地と空間構成に関する研究 – 鹿児島市における大規模住宅団地を対象として – (鹿児島大学建築学科4年 柚木崎さん)

バス停の立地は店舗と関係性があります。一方で、屋根やイスなどがないバス停も多く、空間としてバス停の魅力があまり感じられません

バス停が休憩所のような空間になれば、さらに快適になり待つことが苦にならなくなります

バス停が他のいくつかの要素と共に機能することが地域活性化のために必要です



学生による発表

■団地の魅力や問題について話し合おう！

これからのワークショップに向けて、「団地の住みやすさ」について意見交換したところ、様々な意見が出ました。

次回のワークショップでは、今回出たキーワードをもとに、団地の魅力や問題について掘り下げて意見交換を行います。

「団地で住みやすいと感じていることや、不安・不満を感じていることはありますか？」という問いかけに対して、意見交換を行いました

■ワークショップで出し合った皆さんのご意見（ご意見を多く頂いたものを抜粋しています）

青：住みやすいと感じている点

<人の良さ・交流>

- ・団地の雰囲気が良い、人が優しい
- ・近所づきあいが良好
- ・人との交流が盛ん
- ・集会所がある
- ・サークル活動が活発
- ・高齢者の方が元気
- ・校区の行事がたくさんあり楽しい
- ・夏祭りが好き

<環境(緑、静か、景観)>

- ・団地内がきれい
- ・自然が一杯で公園が多い
- ・さくら並木が美しい
- ・しずかな街である
- ・住宅間にゆとりがある
- ・幼児教育を行うのに、良い自然環境にある
- ・桜島がみえるところ

<安全>

- ・「人間尊重のまち」
- ・車道を通らずに通学できる安全な通学路
- ・地域の方の見守りが良い
- ・子育てがしやすい（安全面）
- ・安全な街（公園・ブランド・緑道・静か等）

<交通>

- ・職場に近い点で便利
- ・高速が近い、移動が便利

<施設>

- ・歩いて買物にいける
- ・団地内で介護施設やデイケアがあり安心

<交通>

- ・交通の便が悪い
- ・バスの便が少ない
- ・通り抜けの車の数が多い
- ・渋滞が多い
- ・車がないとどこにも行けない
- ・運転ができなくなったら買物が不安

<施設>

- ・商店が少ない
- ・おしゃれなところはない
- ・病院が少ない
- ・夜間救急医療が近くにない
- ・派出所（交番）が団地内にない
- ・コミュニケーションの場が少ない
- ・文化芸術のイベントは、中心部にいかなければならない

<まちの劣化>

- ・道路標識、道路中央線、横断歩道が消えている
- ・大きくなった木のせいで防犯灯の明かりが暗くなった
- ・坂道が多い

<子育て>

- ・小中学校の子育てはしやすい⇔高校が遠い
- ・幼児の人数が少なくなり、団地以外からも園児を集めるようになった
- ・子育て世帯が住みたくても土地がない

<空き家>

- ・空き家が増えている
- ・公営住宅の空室がある（増えている）

赤：不安・不満を感じている点

4. 次回のお知らせ

【第2回ワークショップ】 団地の魅力や問題について話し合おう！

日時：平成31年2月15日（金）19時～21時 場所：皇徳寺校区公民館

皆様のご参加、ご意見お待ちしております！

- 鹿児島市 都市計画課（担当：井上、諏訪田）
連絡先：099-216-1378 FAX：099-216-1398
メール：toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp
- ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所（業務受託事業者）
連絡先：099-210-9091（担当：大脇、岩切）